友愛

題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」
発行所
公益財団法人 友 愛
〒112-0002
東京都文京区小石川
1-10-13 小石川文天ビル2階
TEL：03-5684-3188
FAX：03-5684-3186
E-Mail:you-i@yuai-love.com
http://yuai-love.com
編集人：羽中田元美
隔月1回　10日発行
会　費（4月～3月）
個人／　3,000円以上
法人／10,000円以上

第五回定時評議員会開催

二〇二一年度事業報告・決算書類承認

事業推進に向けて思いを結集

二〇二二年六月十一日（土）十一時より友愛サロンに於いて第五回定時評議員会が開催され、二〇二一年度事業報告及び二〇二一年度計算書類（決算書）について協議・審議を行った。協議の結果、第一号議案二〇二一年度事業報告、第二号議案二〇二一年度計算書類共に、全会一致で承認された。

議長選任

定款23条に基づき、評議員の互選により議長を選任し、谷藤悦史評議員が議長の座に着いた。

理事長挨拶

私共の財団「友愛」は、皆様方のご協力を得て、活動を行っております。特に最近では、鳩山友愛塾修了生の理事たちが中心となり、動きを活発にしております。加えて「友愛ユニオン」という、派遣員経験者を中心として、若者の活動も盛んになってきました。

鳩山由紀夫理事長

谷藤悦史評議員会議長

世界の情勢を見るに「今こそ友愛」の思いを強くしております。必要なのは、人と人のつながりであり、これこそが平和への道だと思っています。今後とも皆さまのご協力をお願い申し上げます。

協　議

協議を前に、各事業担当理事より、事業報告書を基に、詳しい報告がなされた。監事からの監査報告に加え、担当理事が事業推進の中心となっており、素晴らしい組織構築状態にあり、他の財団の手本となるとの評価が伝えられた。

決議に入り、議案は全会一致で承認された。

事業報告―総括―

二〇一九年の末から始まった新型コロナウイルスの蔓延によるパンデミックは、二年を経過した今も終息に至っていない。本財団の事業、特に海外との往来を軸にしている事業にとって、思うように実施できなかった部分は多い。

そんな中、時代の流れに沿ってWeb（オンライン）を活用しての表彰式、勉強会の実施などが実現できたことは収穫であった。しかし、人と人が対面し、お互いの思いを伝えるという本来の交流形式に比べると、手ごたえとしての実感が薄いことは否めない。

困難な状況の中ではあったが、「今、友愛としてできることを実践する」という合言葉のもと、事業を担当する理事が中心となって財団運営を牽引し、友愛らしい活動が継続できたことは、記録に留めたい。その牽引の力がおよび、「友愛ユニオン」と命名された海外派遣経験者などの若者による勉強会など、本財団の将来につながる動きが胎動し始めたことは、喜ばしい出来事と言える。

今年度の総括として特筆すべきは、年度末に届いた「税額控除承認団体」の認定書である。ここに至るまでに、ご尽力、ご協力くださった関係各位のご努力の賜物と、この場をお借りして御礼申し上げる次第である。これにより「新しい公共」のあり方を真摯に実践し、これから生まれるであろう多くの団体の規範となるべく努力を続けて行きたい。世界の混沌たる状況を引き合いに出すまでもなく、新型コロナウイルスの影響で、人と人とのつながりが希薄になっている今、今こそお互いを思い、尊重し、助け合う「友愛の理念」が必要な時であると、強く思う。

そのためにも、本財団の存在意義を再確認し、友愛理念の普及を以て世界平和に資するという、定款に掲げた目的にそって、活動を続けて行きたいと思う。

※事業報告書・計算書類は、友愛HPに掲載しております。

友愛ユニオンの会開催

仲間が集い「友愛」のひととき　笑い声に満ちて

二〇二二年三月二十六日（土）友愛サロンで「友愛ユニオンの会」を開催しました。

友愛から派遣員として海外に赴いた経験者の集まりです。卒業して社会人となって活躍している方、最後の学生生活を謳歌している学生など現状はまちまちですが、みんな仲間。

理事、評議員も加わり、それはそれは賑やかな会で、笑い声あり、真剣な討論グループありと、友愛の友愛たる所以を遺憾なく発揮していること間違いなし！　です。

これからもこの仲間は増えていきます。それはすなわち友愛の発展に繋がります。皆さんもエールと共に、見守ってください。

※友愛HPもどうぞ！
yuai-love.com
二面QRコードからも可能です

（左上）理事長を囲んで、みんなで記念撮影。友愛ユニオンの仲間達、そしてそれを支える各位は、友愛のこれからを築く頼もしいメンバーです。（写真右上）これからの友愛の運営、事業実施について、若者を含めての意見交換会。活発な発言、真摯に耳を傾ける鳩山由紀夫理事長。友愛ならではの光景です。（写真下二枚）懇親会はいつも賑やか。久しぶりに会った仲間と話が弾みます。理事・評議員の大先輩の意見を聞くことが出来る貴重な機会。Webで参加の仲間にもしっかり声を掛けて、素敵な時間が過ぎてゆきます

友愛時評

▼このところガーデニングにはまっている。小学校一年生で朝顔が発芽せず観察日記の「捏造」を強いられて以来、植物には縁がないと思ってきたが、歳をとったということだろうか。▼きっかけは、勤務している大学の施設管理問題だった。二〇一〇年に建てられた専門職大学院用の新棟二階テラスに芝生スペースが設けられたのだが、その養生や維持まで設計者は考えていなかったようで、芝は荒れ果て生い茂った有害植物の駆除に難儀する状況となった。そのスペースをガーデニングに活用しようというアイディアを出した教職員有志に学生二〇余名が加わって、草刈りや抜根を経て、チューリップ、ナス、ヒマワリ、朝顔、萩…と各々好きなものを植えている。早い夏のおかげか、素人栽培にしてはまあまあの生長ぶりである。▼生来の凝り性ゆえ、ヒマさえあれば園芸店やホームセンターに通い、官舎のベランダにプランターを並べ、研究室にも観葉植物が増えている。同じように植えても枯れるものもあれば力強く育つものもあり、生命の不思議さは実に面白い。▼『家栽の人』という司法漫画の名作が描くように、人の成長や関係性も自然界に通じる。日々水やりをしてくれる学生の多くは法科大学院の所属で、学習や試験のプレッシャーは並大抵のものではない。そうした成長のための負荷につぶれることなく、力強く根を張って大輪の花を咲かせて欲しい――そう願いつつ、実ったナスをどう料理しようか考えている。（ヒゲ）

邦夫と私と蝶

理事長　鳩山由紀夫

弟邦夫は無類の蝶好きであった。多分、邦夫が歴史に残るとしたら、政治家として以上に蝶の研究家として名を残すのではないかと思っている。

彼の遺した多くの蝶の標本は現在東大に移され、文京区教育センターで、彼のコレクションが「魅惑の昆虫」として展示されている。

かく言う私も子どものときは弟と一緒に野山で網を振っていたものである。

邦夫も私も小児喘息でガリガリに痩せていたので、家庭教師の先生から教えてもらった昆虫採集と野球で、少しずつ体力を回復させていくことができた。

（写真右）蝶の採集にいそしむ鳩山邦夫前理事長。子どもの様な笑顔で「捕まえた！」／石垣島にて（写真下）鳩山邦夫先生が発見し、その名が学名となっているハトヤマミドリシジミ　開帳（羽を広げた横の長さ）35ｍｍ　撮影／矢後勝也氏

Chrysozephyrus hatoyamai Fujioka, 2003
ハトヤマミドリシジミ［シジミチョウ科 Lycaenidae］

毎年夏には軽井沢の別荘で過ごしていたが、庭の梢を舞っていたムモンアカシジミを最初に捕えたときには、弟に羨ましがられたと記憶している。

国蝶のオオムラサキは軽井沢駅の近くにある矢ヶ崎山の頂上付近で時折見ることができたが、小諸のエノキ林まで捕りに何度も出かけた。とても美しい蝶で捕れたときの喜びは一入であった。邦夫がとても好きな蝶はキベリタテハで、確かに飛んでいるときの美しさには気品と言っても良いような格別なものがあった。アサギマダラやアサマモンキチョウを捕まえに浅間山に行ったり、オスの緑の翅がきれいなゼフィルスを探しに軽井沢銀座の先にある水源地まで二人でよく行ったりしたものである。

邦夫は当時の名著『原色日本蝶類図鑑』をほぼ丸暗記するくらいだったと思う。寝る前に必ずと言って良いほど、蝶の当てっこをさせられた。図鑑の中から蝶の説明文を読んで、それが何蝶かを当てるゲームである。私は苦手で、ほとんど当てられなかったように思うが、弟はほとんど当てていた。弟の記憶力にはとても敵わなかった。

懐かしいのは弟と二人で北海道を旅行したことだ。私が大学一年、邦夫は高校二年生ではなかったかと思う。もう57年前のことなので、不正確なところもあると思うがご容赦願いたい。二人だけで大きな旅行をしたのは、後にも先にもこの時だけだった。札幌に着いてお寿司屋に行ったら甘エビが出た。二人とも生のエビを食べるのが初めてだったので、最初は躊躇したが美味しかった。外国人が初めてお寿司を食べるときの心持ちはこんなものなんだろうと思う。

余談ではあるが、弟は当時から自分で料理をすることが好きだった。夜中、その日の勉強が終わる11時頃に台所に集まって色々なものを食べさせてくれた。あるときは餃子を作ってくれた。それも皮から作るのだと言って、一所懸命に皮から餃子を作ってくれたので、出来上がるまで一時間以上かかったのではないかと思う。市販の餃子に比べてやや皮が厚かった印象があるが、美味しかったことを思い出している。

我々が今回の旅行で目指したのはオオイチモンジを捕獲すること。本州では高地に棲むが、高山に上るのは二人とも苦手だったので夢の蝶であった。ところが北海道では道東などの平野部に生息していることを知っていた。そこで我々は道東に向かい、阿寒湖を見てから弟子屈温泉に宿泊した。ここは大横綱大鵬関の出身地としても有名である。オオイチモンジの食草はドロノキである。翌朝ドロノキのありそうな道を歩いていると、目の前の地面にオオイチモンジが吸水に来ていたのである。邦夫が遠慮して私が捕虫網を振らせてもらってオオイチモンジを一頭捕獲することができた。垂涎の蝶を採集できた時の胸の高鳴りは今でも忘れられない。

さて、どこの旅館だったかは覚えていないが、旅館の夕食時に魔法瓶から飲んだお茶のコルクが腐っていて変な匂いがした。翌朝、二人とも食あたりのような症状となり、とくに邦夫のほうが深刻だった。それでもその日は層雲峡まで行くことに決めていたので、バスに乗ることにした。大きく揺れるバスの道中二人とも吐き気を抑えるのに必死だった。層雲峡についても邦夫はぐったりしていた。私はやや回復気味であったので、邦夫の見守る中で雑草の生えている急こう配の丘を上り下りしながら、カラフトタカネネキマダラセセリという、当時は最も長い名前のセセリチョウを一頭見つけて網に入れることができた。とても小さな蝶なので、展翅をするのに苦労した覚えがある。

弟がそれこそ人生をかけて蝶の研究に勤しむようになったのは、私が米国に留学してからであり、私は詳らかには存じないのであるが、帰国して聞くところによると、ペアリングに力を入れているとのことだった。雌雄を捕まえて卵を産ませて孵った幼虫に食草を与えて成虫にまで育てる技術を研究していたようだ。私も一度シャーレに入ったミドリシジミの幼虫をもらったことがあるが、食草に苦労し、勤務先の専修大のミズナラの葉っぱを失敬したことがあった。

今、邦夫の研究の成果が実に沢山の標本となって、教育センターで展示されている。

私が最も驚いたのは、邦夫自身が発見したゼフィルスがハトヤマミドリシジミという名で展示してあったことだ。多分、世の中に一頭しか存在していないのかもしれない。この蝶だけでもみなさんに見ていただけたら、弟も喜ぶに違いない。

蝶は「自然との共生も友愛である」と説いた弟の原点なのである。

＊矢後勝也氏のご協力を得て蝶の写真を掲載しています。

＊「蝶―魅惑の昆虫―」展については、同封のチラシをご参照ください。

ＯＥＪＡＢ派遣員募集開始

10日間のオーストリア研修　ホームページに詳細掲載

今年もＯＥＪＡＢへの派遣員を募集します。

皆さんのお知り合いにも是非、友愛の活動をご紹介いただき、沢山の方に応募いただけるようお知らせください。

詳しい募集案内（応募要項など）は友愛のホームページに掲載しております。また、下記ＱＲコードを利用して、スマートフォンでご覧いただくことも可能です。　沢山のご応募を！

友愛ホームページ用ＱＲ
スマートフォンで読みとってご覧ください

公益財団法人友愛 主催　国際交流事業

オーストリア※への派遣学生募集

ÖJAB　YUAI Foundation

公益財団法人友愛の公益事業として、2022年度の派遣員を学生（大学院生を含む）の中から募ります。ウィーンでの10日間、多くのことを学習できる絶好の機会です。
要項は下記の通りです。　※現地受入団体 OEJAB　エヤップについては OEJAB

記

1）期　　間　2023年3月16日（木）～3月26日（日）予定
（初日は東京での研修、現地9泊10日）
≪コロナ禍の状況等により変更の可能性あり≫
2）参加費用　50,000円（往復航空券代金・現地滞在費用・旅行保険代含む）
＊＊＊宿泊はエヤップの所有する宿泊施設（ホテル等）朝食付き
3）内　　容　難民救済事業等エヤップ運営施設訪問・在所者との交流
国連機関等訪問、現地観光　等
＊＊＊活動内容の詳細等についてはQRから友愛HP／活動内容に掲載されています＊＊＊
4）参加条件　友愛ＨＰの応募要項参照　（応募者は必読の事）
5）応募方法　公益財団法人友愛ＨＰより申込書をダウンロードし、必要事項記入（写真貼付）の上、①申込書・②推薦状・③作文・④自己紹介動画を提出
①②③は郵送、④はメール添付　＊詳細は応募要項参照
6）締　　切　2022年9月30日（金）必着　＊応募書類は返却いたしません。
7）選考方法　有識者等で構成される「選考委員会」にて選考
2022年11月上旬選考結果発表　派遣人数／男女計6名以内

難民の青年達と2019年度派遣員

国連機構がある建物の中庭で

詳しくは左記QRから活動報告を

公益財団法人友愛　〒112-0002　文京区小石川1-10-13　TEL 03-5684-3188
https://yuai-love.com

編集後記

◆邦夫先生の収集された蝶の展示会に行って来ました。見事としか言いようがない、素晴らしいものです。皆さんも是非！　蝶と言えば以前、亡くなった母が描いた油絵の蝶八点を記念品として絵はがきにした際、邦夫先生が「鳩山邦夫推察」との但し書き付きで、蝶の名前を書き込んでくださいました。ビックリするやら、嬉しいやら！　勿論今でも大切に、お仏壇にお供えしてあります。天国で母が恐縮している姿が目に浮かびます。感謝・合掌　（も）